

## 緊急時給水拠点確保事業 (平成3年度～6年度)

### 3号配水池新設と送・配水管の整備

平成2年度の水道施設基準改定により、配水池容量が計画1日最大給水量の8時間分から12時間分に改定されたことから、浄水貯留量の増加と災害等の緊急時における給水拠点の水量確保を目的として、平成3年度に「緊急時給水拠点確保事業」が新設されました。この事業の新設とほぼ同時に申請したこともあり、国内第1号として採択を受けました。

計画は、渚地区の高所に1日の配水量の4時間分に相当する3,500m<sup>3</sup>の容量を持つ3号配水池の築造と、送水管、配水管を約5.5km布設するもので、平成3年度から6年度の4カ年で実施しました。



腰岳より配水池・給水区域を望む

緊急時  
給水拠点  
確保事業

配水池築造 / 3,500m<sup>3</sup>(立花町鈴桶782)  
 送水管布設 / 1,618m  
 配水管布設 / 3,858m  
 総事業費 / 857,892千円

国庫補助金 / 242,550千円  
 県費補助金 / 101,031千円  
 起債 / 436,300千円  
 その他・特別会計 / 78,011千円

## 遺跡群出土に合わせ壁面にイメージデザイン

腰岳のふもとに位置する渚地区は、黒曜石が存在する全国でも数少ない場所であり、そのためこの周辺ではこれまで多くの遺跡が出土しています。このPRを兼ね、遠く石器時代を想像したモザイクを配水池壁面に描きました。しかし、この壁画の前面を通る予定だった「ふるさと農道」が迂回することになり、直接人目に触れにくくなったのは少し残念です。散策のついでにご覧ください。



3号配水池：3,500m<sup>3</sup>

## モザイク壁画

石器時代の暮らしの様子を伝える壁画と  
 黒曜石出土に関するパネル

